





「撤去するにも費用がない」と、業者は開き直ったという。そして産廃の不法投棄業者は倒産。夜逃げをしたとの知らせが入った。残ったのは大量の産業廃棄物だ。ダンブ何千台分もの違法投棄された産廃。その会社経営者を裁判に訴えたところで、撤去費用を払わせること無理だろう。いかんせん額が大きすぎる。撤去は県か村が行うことになる。おじいちゃんたち村の人たちの税金が産業廃棄物の撤去に使われる。こんなことが許されるのだろうか。税金は教育や福祉、下水道などの社会資本のためにみんなが納めている。違法産廃の処理のために納めてはいない。倒産した産廃業者は不法投棄で利益を得ている。その後始末を税金で行うのだから、彼らはおじいちゃんたちが払った税金を横取りしたということになる。これこそ税金泥棒だ。税金はみんながお金を出し合い、支え合うすばらしいシステムだ。特定の者たち、とりわけ違法なことをしている者たちに利益をも

たらす制度であってはならない。  
 全国には至る所に違法投棄の粗大ゴミに困  
 っている人たちがいる。撤去作業はいずれ行  
 われるだろう。撤去費用に税金が使われるに  
 ちがいない。なんと悲しいことだろうか。  
 違法に産廃が投棄されれば、その処理に税  
 金が使われるのは分かっていることだ。それ  
 ならば、違法業者を厳しく取り締まる法律は  
 できないのだろうか。お金をもうけるだけに  
 うけて、後始末は税金でという態度、しかも  
 大切な自然を破壊する彼らに、同情の余地は  
 ない。違法投棄が割に合わないかを身をもつ  
 て分からせる必要がある。そうでなければ、  
 法律を守り、額に汗しながら産廃処理の仕事  
 に従事している人に対して失礼だ。まじめに  
 働く人が損をする社会であってはならない。  
 撤去費用に使われる税金は何十億、何百億  
 にもなる。その金額に値する刑罰でないとい  
 税金を納めている人たちは納得しないだろう  
 将来税金を納めるわたしたちも承知できない